

薬だつ知識

100

病院から処方された薬について、「飲みにくい」「飲み始めてから少し気になる症状がある」「市販薬や健康食品と一緒に飲んでも大丈夫だろうか」など、不安を感じたことはありませんか。そうした心配事や疑問を気軽に相談できる身近な存在が薬剤師です。

薬局では、患者さんに聞いた内容や薬局で把握した情報を医師と共有する服薬情報提供書（トレーシングレポート）を作成します。すぐに対応が必要というほどではないものの、医師に知っておいてほしい患者さんの情報を報告するためにまとめ、病院に提出しま

トレーシングレポート

患者情報 医師に届ける



副作用歴や服用中の薬などの情報を記入するトレーシングレポート

す。

薬剤師は、患者さんの実際の薬の飲み方や飲み忘れなどの服薬状況、副作用の可能性、残っている薬の量、市販

薬や健康食品の使用状況のほか、生活習慣（食事時間、睡眠起床時間、喫煙・飲酒習慣など）を確認します。そして治療に影響するような点があれば、その内容を整理して医師に情報提供します。

実際にトレーシングレポートを通して、副作用が疑われる薬の中止や変更、患者さんの生活状況を踏まえた用法の変更、薬の飲みにくさから剤形の変更に至った事例もあります。

病院では医師に遠慮して言えなかったことも、薬局に来て薬剤師には話せるという方は少なくありません。「こんなこと聞いてもいいのかな」と思う心配事や疑問こそ、ぜひ薬剤師に話してください。薬剤師は患者さんの「代弁者」として、その声を医師だけでなく他職種にも発信することで、より安心で安全な医療の実現に貢献しています。

（鹿児島県薬剤師会学術研修委員
向井恵利紗）

令和8年3月3日（火）
100・トレーシングレポート